

卒業論文の要旨

論文題目	環境教育における博物館の利用
氏名	栗原紗耶
メジャー	環境学専攻・博物館学副専攻
<p>(要旨)</p> <p>現在、様々な環境問題が世界中で話題になっている。これらの問題を解決するための方法の一つとして注目されているのが、「環境教育」である。環境教育とは、環境について考え、環境問題解決のために自らが積極的に活動できるような人材を育てるための教育である。本論では、日本国内で行なわれている環境教育の現状を調べると同時に、社会教育施設である博物館に焦点を当て、博物館で行なわれている環境教育の現状や、環境教育で博物館がどのように利用されているのかを調査した。</p> <p>調査は、環境省や企業、団体や博物館のホームページから行なった。日本国内の環境教育の事例は、独自に社会教育と学校教育に分類した。博物館の事例は、「自然環境や環境問題に関わるもの」の中で「市民に向けて行なわれている活動」を環境教育と定義づけて、分野ごとにまとめた。その結果、日本国内では様々なところが主体となり、多くの環境教育が行なわれていることがわかった。また、分野ごとに差はあるが、個々の博物館では、積極的に環境教育活動を行っており、環境教育を重要視している傾向が見られた。しかし、個々の博物館で環境教育を推進しつつも、その活動は閉塞的なもので、外部との協働が上手くいかず、普及が乏しい現状も見られた。今後は、学校や地域、分野を超えた博物館同士の、本当の意味での協働が必要であろう。また、新型コロナウイルスの流行に伴い、博物館の環境教育も、今までの方法から新しく見直す必要がある。モノがあり、専門知識があり、学校教育とも繋がることのできる社会教育施設としての博物館が、これらの課題を解決し、環境教育をさらに進めていくことに期待したい。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>本卒業論文は、リベラルアーツ学群の強みを生かし、筆者が主専攻とする環境学と副専攻及びゼミで学ぶ博物館学とを融合させた、ユニークな総合科学的研究と言える。環境教育を社会教育と学校教育との対比の中から検討し、社会教育機関である博物館における取組みに注目した研究視点はオリジナル性が高い。環境問題は、博物館にも課せられた今日的課題ではあるが、博物館学会では、この種のテーマに関する先行研究は意外に少ない。コロナ禍により、現地調査が大きく制約された1年であったが、インターネット等で得られる情報を駆使し、全国の博物館等で展開されている環境教育活動について、約40に及ぶ事例を丹念に調べ上げ、まとめた労作である。</p>	